

Title	紫波郡昔話(佐々木喜善著, 郷土研究社発行) / 津輕舊事談(中道等著, 郷土研究社発行)
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.3 (1926. 7) ,p.151(457)- 151(457)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260700-0151

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

紫波郡昔話

(佐々木喜善著
郷土研究社發行)

津輕舊事談

(中道等著
郷土研究社發行)

兩書とも爐邊叢書中の最近刊書である。紫波郡昔話は奥州における昔話採集者として有名なる佐々木氏の編著であつて、氏が紫波郡の人小笠原氏より報告されたる二百七篇の中から、『口碑傳説の部類に入れるのがよいと思はれるもの、其他此集の他の譚と著しく重複したものや、又は其斷片かと思はれて、さう價値の有りさうにも思はれぬものやを除き、この百十五篇だけを輯め』られたのである。ところがこの百十五篇の昔話は、どれもこれも誠に面白いもので、中には吾々の幼時誰かに聞いて、かすかに記憶の底に残つてゐたものを再び想起させるものがあつて、一層のなつかしさを覺える。そこには繼子の成功と繼母の失敗の話がある。和尚の愚と小僧の賢の話がある。慾の失敗の話がある。あわてもの話、馬鹿賢の話、動物にからまる話がある。炭焼長者の話や三輪山傳説に類する話がある。かくのごときたわひない、面白い話、老媪がかあい孫達にきかせた、さうして大人となつて殆ど忘れてしまふ話、この單なる昔話にも、しかしながら人間生活の大きな教訓と事實とあることを忘れてはならない。

津輕舊事談は、本土の北端、東西南北中津輕の五郡における傳説や民俗二十篇を口碑と記録とによつて収録したものであつて、その傳説の中に田村鷹將軍が度々出てくるのも特色であり、また外ヶ濱の萩の話などもこの地において始めて聞かれ得るものであ

書評

る。兩書ともに北方文明の研究に重要な資料を供するものであつて、今日一般文化の點において比較的後れたるこの地方が、吾の新しい學問によつて開拓されてゆくのはまことに喜ばしいことである。(松本芳夫)

美術の都

(澤木四方吉著
東光閣書店發行)

本書は大正六年秋第一版を公にして、すでに江湖の歡迎をうけたのであるが、今般更に増補改版して刊行されたものである。その序文におけるがごとく、本書の内容はヨーロッパにおける『美術若くは美術の人及び都會を主題としたる印象、批評、紀行、紹介等である。』けれども著者は美術史家としてすでに令名ある學者であるから、その所見は單なる旅人の淺薄なる印象や無責任なる批評と異なり、簡潔なる叙述のうちにも豊富なる示唆と卓拔なる批評と適確なる論斷とがふくまれ、讀者をして西洋美術史に對し正當なる見解をいだかしめ、一の鑑賞の指針を供するのである。『花の都』は近世紀文化の花が最初にその蕾を破つて、艶麗その妍を競つたフロオレンスの訪問記であつて、新藝術の先驅者ツォットを始めとして、アルネレヌゴ、ドナテロ、マサッチオ、ボテチエルク、及びミケランジェロ等のルネサンスの巨匠の遺作についての觀察記であり、その他『伊太利亞の旅』『羅馬の秋』『美術の都』『巴里にて』及び『ミュンヘンの憶出』等はヨーロッパの古美術市についての印象、批評、或はその追憶であつて、挿入されたる多くの鮮明なる寫真版もまた讀者の理解を助くるに十分である。し

(四七)

一五一